経済都市と世界をつなぐ大阪税関

企画展示「経済都市と世界をつなぐ大阪税関」では、本学と包括連携協定を結んでいる大阪税関をテーマにしており、大大阪時代の市長である関一氏の蔵書「関文庫」を中心に資料を展示しています。

開国にともなう大阪開港によって、安治川口の川口居留地に運上所が置かれました。これが現在の大阪税関のはじまりです。その後、大阪税関は外国貿易を中心に、近代的な経済都市として発展していく大阪を支え続けてきました。特に、大阪築港と外国貿易の拡大によって大正9(1920)年に移設された本関庁舎は、大阪が「東洋のマンチェスター」と謳われた大大阪時代を象徴しています。当時の資料をご覧になりながら、経済都市と世界をつないでいた大阪税関とその役割に関心を持ってもらえると幸いです。

【参考文献】大阪税関『大阪税関百二十五年史』1993年、大阪市港湾局『大阪築港100年　海からのまちづくり』1997年

大阪税関と大阪築港（展示ケース１）

大阪が近代的な経済都市として急速に発展していく中で、大阪税関と大阪港はともに歩んできました。その関係は現在でも変わりません。展示ケース1には、大阪築港当時の様子が分かる写真と関文庫の資料群を展示します。

＊100年前の大阪港　大阪府『大阪府寫眞帖』大正3（1914）年

当時、大阪税関本関庁舎は川口にありましたが、.大阪築港の進展と外国貿易拡大にともなって、庁舎は築港に移転しました。なお、この時に移転された場所は、現在の本関庁舎とほぼ同じ位置にあたります。

＊The port of Osaka　昭和5（1930）年　大阪市役所

大阪市役所の発行した全編が英語で編集された大阪港の解説書です。
外国貿易の拠点であった大阪港を訪れる外国人に向けたパンフレットとして発行されたと考えられます。

＊関文庫における大阪税関と築港に関する資料

大大阪時代の大阪市長、関一氏(1873 ～1935)の蔵書である関文庫には、実際の大阪市の政策立案の基礎となったと思われる文献が数多く含まれています。その中には、大阪税関や築港、大阪港での貿易状況に関する資料もみられ、外国貿易によって賑わう大阪港を思い起こさせます。

＊大阪築港梗概　大正1（1912）年　大阪市役所港湾課
＊大阪築港梗概　大正4（1915）年　大阪市役所港湾課
＊大阪税関沿革史　昭和4（1929）年　大阪税関
＊最近の大阪港　大正7（1918）年　大阪市港灣部
＊歐州戰亂の大阪港に及ぼせる影響　大正5（1916）年　大阪市役所港灣部
＊大阪築港工事概要　昭和4（1929）年　大阪市港湾部
＊大阪築港利用完成ニ関スル報告書　大正12（1913）年　大阪市役所
＊大阪港概觀　大正13（1924）年　大阪市港灣部

大阪税関と貿易（展示ケース２）

大大阪時代、遅れていた大阪築港が進んだことによって、大阪港の外国貿易は大きく伸長し、大正10,11年には輸出額が全国第2位となりました。大阪への本船寄港は増加し、商工業の中心都市である大阪の発展を促しました。展示ケース2では、大大阪時代の大阪税関の活動と貿易がわかる資料を展示します。

＊大阪ト海運ニテ貨物五千噸以上ヲ取引スル各地　（関文庫所蔵）
大阪市役所編『大阪港勢一斑』昭和2（1927）

大阪市が発行していた船舶と海陸出入貨物の年間統計。海運貨物と船舶の統計には、税関の統計が用いられています。
展示のページでは、統計グラフが世界地図と照らし合わせており、当時の大阪港と世界各港の貿易状況が明らかになります。

＊大正9（1920）年に新築された大阪税関本関庁舎
大阪税關『大阪税關沿革小史』大正9（1920）年

新築当初の大阪税関本関庁舎の写真です。建物の造りは木造二階建ての洋館でした。
この建物は、昭和20(1945)年6月20日の空襲で焼失しました。

＊大阪税関図書目録

大阪税関本関庁舎図書室の蔵書目録。各国の関税、法律と条約、統計、港湾に関する資料を収集していました。
他にも、国内の経済を知るためのダイヤモンド、東洋経済新報、エコノミストなどの経済雑誌が並んでいます。